

中村俊定文庫  
文庫 18  
1038



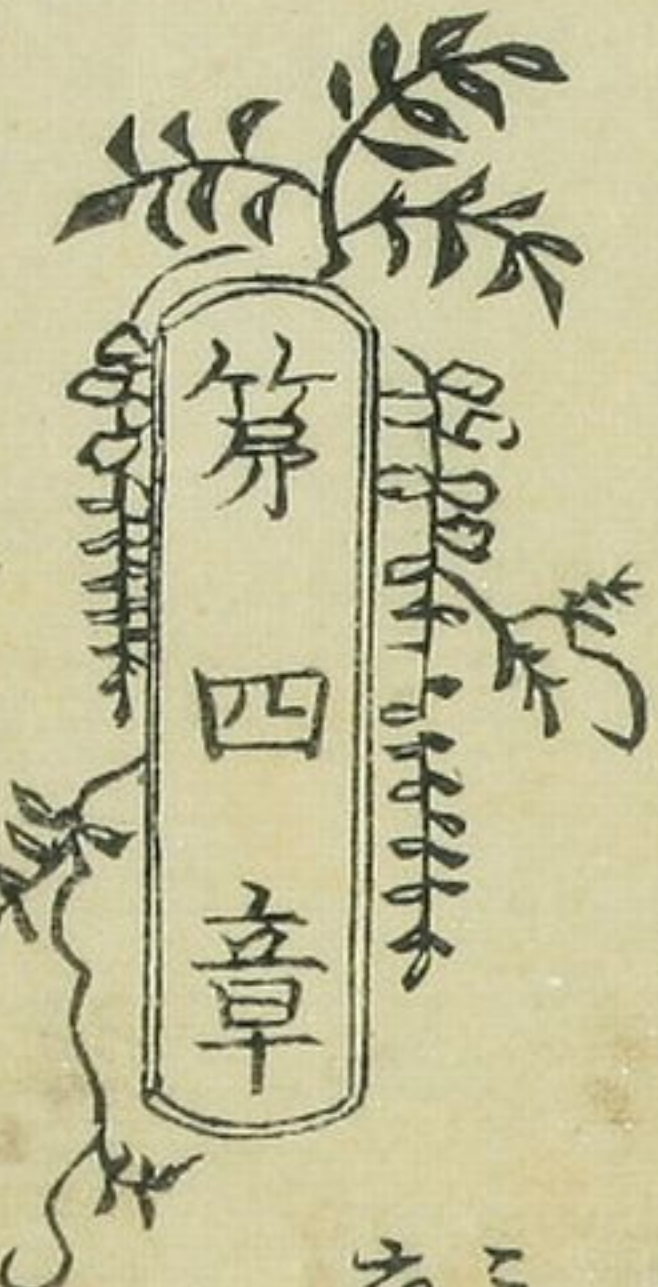


誹語堀之内詣下之卷



東都 十返舎一九著

第四章



慈小眼のまね座次  
ひりかきと積の吹替

世界佛法腹会唄とて危角く秘後生ぶろも  
出せ。いふ祖師日蓮聖人の有るうたとていりて後  
うゝ高声小題目も出さるべし。往来小即席料理の  
舗建つとて柔飯下んぐくの履簀張ふせく。あんでも



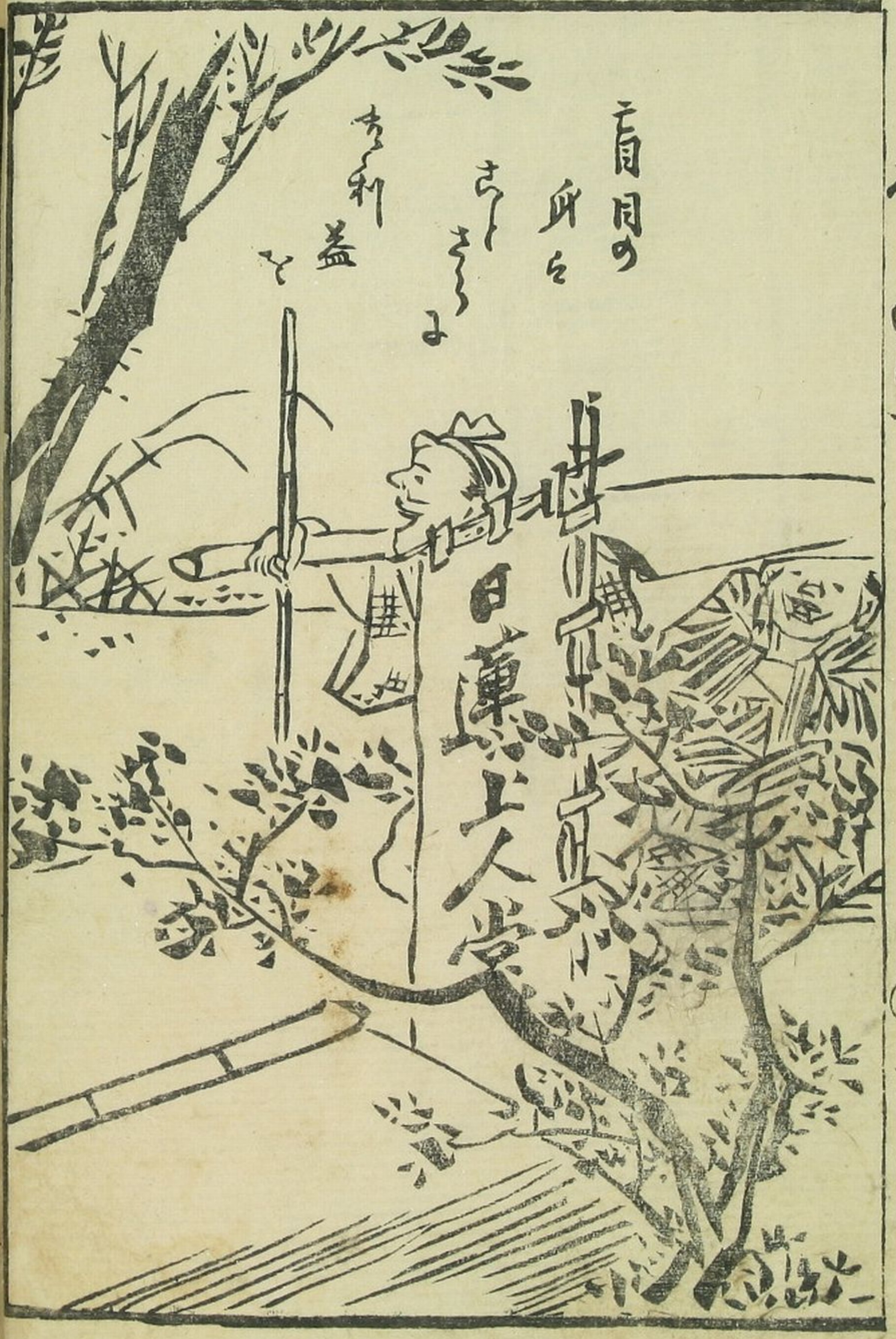






東寧舎  
一河

ゆくの  
内  
松  
て



盲目の  
所々  
ち利  
益  
よ

日蓮上人告

たの











Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on two pages of aged paper, with some ink bleed-through visible. The script is dense and appears to be a form of shorthand or a specific dialect. The text is organized into several lines, with some words or phrases enclosed in brackets or underlined. The overall appearance is that of a well-used, possibly archival, document.



Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of cursive script with various annotations.

Main body of handwritten text on the left page, continuing the cursive script from the right page.





た  
の  
の  
り  
し

し  
し





















芝白亭  
一船

芝白亭



中々々々

酒

丁

あ

百

長

さ

酔

と

芝白亭

芝白亭



















文亭  
一軒



か  
城の  
内

孝  
子

ゆ  
へ

福  
唯  
ま  
が  
の



御  
軒  
内

文亭  
の  
一  
軒





















ツ年の  
自  
紫丹を  
一奴

わのり

三

雷



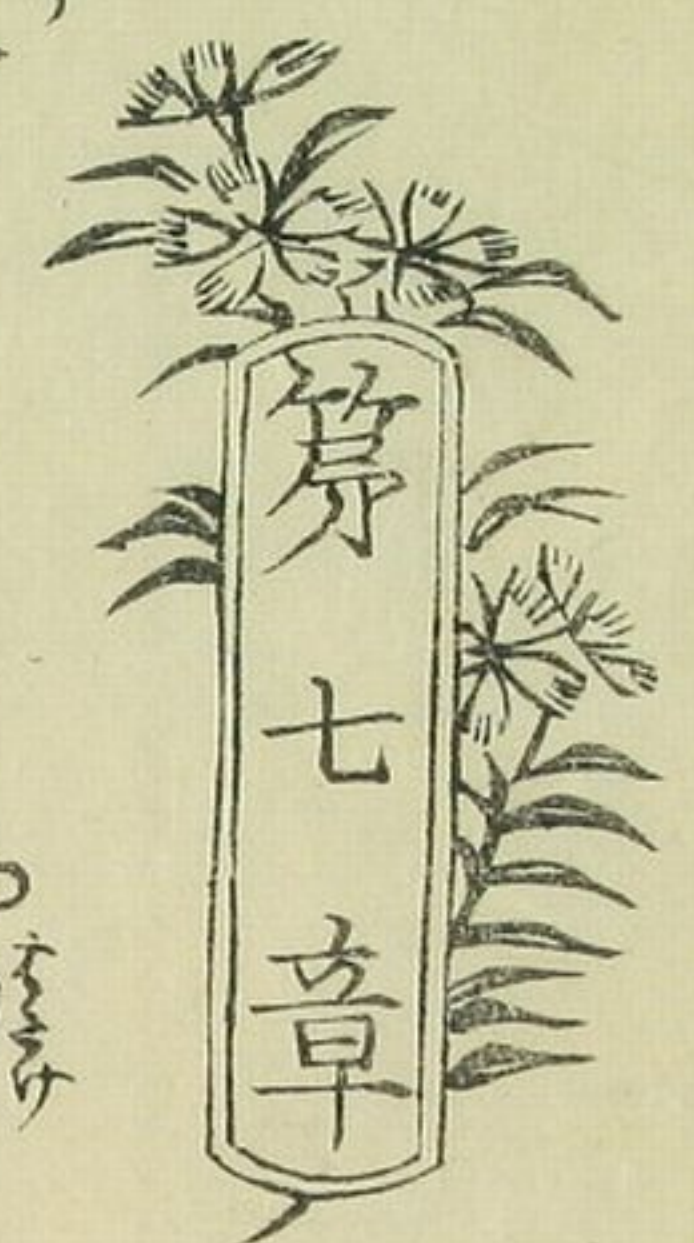
か  
ムリ  
こ  
建  
ま

石の

二



あつてつらきもの



第七章

出傍題月の奇特

佛と賣ぐひの屋敷

街道よりまうて。畑中の屋をゆけぬ。例は菰筵

まど紙をきて。糸猪の人の後をくらう。くのを食

ども「盲」目おさる。足のおまりぬりらふ。「めんらご

さうませ」「いへく。こころは鶴人の色鳥のまがらうさ

けんがう」くらをうらう。老ま。腰抜たうでござう

まさで「いへく。まがく亭まふ。おろし。ひじくたん

あもらう。ませぬう。ひりく。おまをさう。まま。

お意地ふ。後り。ませ。は。後。ま。ま。は。り。

そんで下。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。



鏡で三人たもとあることいふ。鏡をどちおなるのいふ。
 コリヤ一文でもめつふふもなほしてあつて移入し
 てもこの屋敷に「テブとテブ」ていふ。是れふごさるゝ祖師日蓮
 と人跡後の國にいつてあつた時。そのひねりの鳥城
 けりぬ。鳥城はいつてあつた時。そのひねりの鳥城
 して嬢登也。とつてくと流せぬよふの浪頭目の
 縁起又辰の口内龍の時。棚うあちと牡丹解のあん
 づ。後建ちあつていつてあつた時。そのひねりの鳥城

ちのまはつていつてあつた時。そのひねりの鳥城
 ちのまはつていつてあつた時。そのひねりの鳥城
 ちのまはつていつてあつた時。そのひねりの鳥城
 ちのまはつていつてあつた時。そのひねりの鳥城
 ちのまはつていつてあつた時。そのひねりの鳥城
 ちのまはつていつてあつた時。そのひねりの鳥城
 ちのまはつていつてあつた時。そのひねりの鳥城
 ちのまはつていつてあつた時。そのひねりの鳥城
 ちのまはつていつてあつた時。そのひねりの鳥城
 ちのまはつていつてあつた時。そのひねりの鳥城
 ちのまはつていつてあつた時。そのひねりの鳥城



第十末吉

石玉未分時

憂心轉相悲

漸々通大道

華歿應殘枝

石玉未分時

いまだ分る時とて

俗小やまの心

の屍子玉とやせやうな

ので石玉と屍子玉が

石のやうふあつて。くさつてまへにうへにうへに

かへつてあつていふが。いまだ分る時むじ憂心とら

出家の屍子玉が。このおあつてあつて悲んごとく

こころあつて。憂心物お悲。これをまきまのあつて

とつてえれぐまらる屍のうまがあつてとらへて

屍へぬけてはあつても屍がまらへて。それとらへ

米屋の屍酒やの屍らうくの屍がらうゆき改め

はつても。屍うさげて屍のは舞ハ屍うさ親善と

おわけのぐ。なつてねとらへあつていふる。まら

漸々大道通とあつて後あはは合がむしてまて。

かの屍子玉がなつて。大屋の屍がなつてとらへ









村の店下

さうさうよ

梅さくひの

はりの内

ちけさう

さう

号の  
様

香  
一  
石

市  
百  
香

函  
茶  
漬  
十二子

〇廿七



















雷

文化十二年丙子

各屋京町通多町

麹町平川町二丁目

伊六

同所三町目

角丸屋甚助

三崎屋清吉

東都書林

同所貝坂

文治郎

通油町 同

村田屋治郎兵衛

家傳

たむし子妙茶

みき江や清吉製

右の字をよむるは一人も治せざらんや  
はるかにゆきあはれなりし 聖工 富田幸吉

たむし子妙茶  
たむし子妙茶

雷

中村俊定文庫



